

第 77 回山口西田讀書會（2015 年 6 月 6 日）

前回（76 回、2015 年 5 月 30 日実施分）の Protokol

出席者（敬称略）：佐野、来栖、深野、千葉、奈原、杉山、萬納寺、田中、山口、桑原、岡部（11 人）

●第一部 Protokol 報告（岡部）

第 76 回の内容に関する指摘はなかった。

【哲学的問いに関する対話】

ペーメの「翻されたる眼 (umgewandtes Auge)」をふまえて、西田が述べている「实在統一の根本」(§ 2-10-5) は、なぜ推論ではなく直覚しなければならないのか——の問いを「見神の事実は初発の純粹経験とおなじか」という問題に問いを立てなおして議論した。

[発言 1] 真実在に種類、濃淡があるとは思えず、初発の純粹経験と「見神の事実」はおなじ経験である
と考えるのが自然ではないか。

[発言 2] 翻されたる眼とは無限の側から有限を見ることのように思える。有限から無限を見ている日常
とは、同じものを見ているようでことなる。

[発言 2] 西田が「根本」というとき、しばしば「超越」の意味を含む

[佐野先生より]

第四編第 4 章「神と世界」の紹介があった。第 2 段落の「すべての意識現象はその直接経験の状態において
はただ一つの活動であるが」以降を読む。

●第二部 第一編第 1 章「純粹経験」第 1 段落を読む

【§ 1-1-1】経験するというのは事実其儘に知るの意である——以降を読む

ここで「未だ主もなく客もない」「知識とその対象とが全く合一して居る」経験をどのようにとらえるか
が問題になった。「孫の運動会で夢中になることは経験か」など、どこまで「経験」の範囲に含めるかで参
加者の認識がまちまちであり、冒頭の一行にすら一致点を見いだすことに困難があった。

(筆記：岡部)